| 提出者 | No. | 賛否 | コメント（賛成･反対の理由や具体的な代替案をご記載ください） |
|---|---|---|---|
| 竹村純也 | 1 | その他 | 本提案が採用される場合、地球温暖化係数の再計算が本当に不要であるかを再検討することが不可欠である。<br>2024年9月、ISSB移行支援グループは、各国規制当局が異なる地球温暖化係数を使用する場合には、IPCCの最新基準に基づくべきとの立場を明確に示した。一方で、第42回SSBJでは、温対法に基づく容認法が「企業への過度な負担回避」を目的としていることから、最新の地球温暖化係数への再計算は不要とする方針が確認された。しかし、その直後にGHG排出データの算定期間を報告期間に調整する提案が行われた。この調整によって、規制当局に提出するデータに修正が必要となるため、結果として再計算不要という従来の方針と矛盾するリスクが生じている。したがって、ISSB基準との整合性およびSSBJ基準に基づく開示の透明性を確保するためには、地球温暖化係数の再計算の是非を改めて検討する必要がある。 |